

2018年(平成30年)12月20日(木曜日)

知事 今年の県政「翔」 国政「傷」

川勝平太知事は二〇一八年の県政を表す漢字に「翔」を選んだ。

県公立大学法人理事長を務めた本庶佑(ほんじゆ)さんのノーベル医学生理学受賞、日本平夢テラス(静岡市清水区)の開業、天皇、皇后両陛下の県内訪問などに触れ「米大リーグで活躍し、ア・リーグ新人王に輝いた大谷翔平君のよう。充実した一年だった」と述べた。

国政には「傷」を選んだ。財務省の文書改ざん問題などを挙げ「傷を持っていく国の運営だ」と指摘した。知事は年末の会見で、県政と国政を同音異字で振り返るのが恒例。

(三宅千智)

三島駅南口の再開発「反対票の方が多い」

市長選結果受け

十六日投開票の三島市長

選で豊岡武士市長が二選したことを受け、川勝知事は十八日の記者会見で争点となったJR三島駅南口の再開発に触れ、「敗れた二候補の票を合算すれば当選者を上回り、結果的に(再開発事業への)反対票の方が多かった。投票結果を謙虚に受け止め、市政運営をしてほしい」と注文した。

知事は以前から「駅前にマンションは似合わない」と、市の計画見直しを求める発言を続けてきた。

(沢田佳孝)